

自由論題（４）

テーマ：「事業構想を担う創造的な人財育成に関する一考察 ～ホスピタリティマネジメント理論の視点から～」

報告者：吉原敬典（目白大学）

報告要旨

私たち人間の本質は何か。この問いに一つの解を導き出すことで、事業構想を担う創造的な人財の要件について考察することが今回の報告の目的である。背景理論は、経営学の一分野であるホスピタリティマネジメントである。その背景理論を手掛かりにして、3つの視点について明らかにしたい。

まず一つ目は、当学会を説明する際のキーワードである事業構想に該当するところである。私たち人間の本質は、自らの欲求や願望を叶えたいと見出すことができよう。想いを巡らし自らの考えに昇華するのである。この視点については自己の領域と表現する。いわば、関係者に影響力を与えるところの源泉である。

二つ目は、そのことを実現させようとするかどうか。関係者に働きかける必要がある。親交の領域と表現している。私たち人間はホストとゲストの二種類に分けることができる。特にゲストについては潜在的に敵意をもった恐るべき敵であるという意味があり、そのことを軽視すると可能性が高まらないことが分かっている。そこで、まずは好意・好感の感情に変換するため、交流することが大切であると言われている。親しく交流し合うということで、親交の領域と表現した。自らの思い・考えと関係者の思い・考えを交流し合う中で共感性の高い水準にできれば、実現へ近づけることができよう。

三つ目は、実現へ近づけることができるということは共感性が高まったと言える。両者がコンセンサスを得たところで課題・目標を設定し達成推進する。そういう意味で、達成の領域と表現する。大切なことは、関係者が創造性を発揮することである。また、共同して設定したゴールまでやり遂げることである。資源を動員し、手段・方法を編成しなければならない。マネジメントの本道と言えるところである。

上記した「自己の領域」「親交の領域」「達成の領域」を育てることで、自律的な人財を育て、事業構想を担う創造的な人財の育成を成し遂げたいと考えるものである。

以上が、本報告の骨子である。